

副専攻名 日本語教育

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、2019年に文化庁が示した「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(7単位以上)、「言語」(7単位以上)の5分野、および「教育実習」(2単位)にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした。

副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、および「教育実習」において計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
16221	日本語教育学基礎1	・日本語教育をグローバルな視野で概観できる。 ・日本語教育の視点から、現在、世界や日本で起こっている現象を理解する。 ・外国人から見た日本語についてや、日本語を外国語として教えるための基礎的な事項を理解する。	2~4		
16421	日本語教育学基礎2		2~4		
16479	国際関係論	国際関係における様々な概念、理論、視点について学び、そこで学んだ概念や理論を使って、紛争、政情不安、貧困、テロ、人権侵害などの国際関係における主要な問題について考察する。	2~4		
16269	国際関係論E		2~4		
16213	日本史概説1	日本の近世史・近現代史に関する理解を深める。	2~4		
16413	日本史概説2		2~4		
16067	日本の文学	日本の文学伝統を具体的に理解する。	2~4		
52124	社会言語学1	社会の中で生きる人間、ないしはその集団との関わりにおいて言語現象や言語運用を捉えようとする学問である社会言語学についての様々な事例を学び、日本語教育的観点から、現代日本語と社会の関係とその応用の可能性についての知識を得ることができる。	3~4		
52624	社会言語学2		3~4		
52051	ジェンダーと社会A	グローバル化が進展する現代社会の諸課題を、ダイバーシティとジェンダーの視点から分析し、今後の望ましいあり方を考察する。	1~4		
52052	ジェンダーと社会B		1~4		
52018	多文化主義論1E	国際的な移民に関する問題への理解を深める。	2~4		
52518	多文化主義論2E		2~4		
52029	文化人類学概説A	文化人類学の基本的な考え方やものの見方を学び、自分とは異なる異文化・異社会の人びととの理解や協調の基礎作りとなることを目指す。	3~4		
52030	文化人類学概説B		3~4		
52535	憲法(人権)A	日本国憲法の人権カタログに相当する、第3章「国民の権利及び義務」に定められた人権諸規定に関する学説・判例の動向を検討し、日本国憲法の人権規定が現実の政治状況においてどのような役割を果たしているかについて理解する。	2~4		
52536	憲法(人権)B		2~4		
52252	イスラーム社会と文化	イスラームの基本を理解し、世界のムスリムに対する誤解や無関心を克服する。	3~4		

副専攻名 日本語教育

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、2019年に文化庁が示した「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(7単位以上)、「言語」(7単位以上)の5分野、および「教育実習」(2単位)にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした。

副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、および「教育実習」において計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
16210 (10019※2)	異文化理解1	国際的事象を相対的な視点から考察する能力と方法論を獲得する。	1		
16410 (10020※2)	異文化理解2		1		
52113	第二言語習得論1	<ul style="list-style-type: none"> ・第二言語習得の基礎理論を概観し学ぶ。 ・日本語教育を第二言語習得の観点から見るができる。 ・日本語教育の実例に触れ、問題点と解決法を考える。 	3~4		
52613	第二言語習得論2		3~4		
52655 (95036 ※3)	発達と学習の心理A	発達の様相と学習成立のメカニズムを学び人間理解を深める。	2~4		
52656 (95037 ※3)	発達と学習の心理B		2~4		
52245	東アジア社会と教育A1	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア地域における社会構造や教育に関する基本的な知識を得る。 ・現代の東アジア地域における社会の形成や教育現象が生まれるに至った背景やプロセスを理解する。 	2~4		
52745	東アジア社会と教育A2		2~4		
52246	東アジア社会と教育B1		2~4		
52746	東アジア社会と教育B2		2~4		
52107	日本語教科書研究1	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育における「学習」について理解する。 ・日本語教科書や教材に関する基礎知識を習得する。 ・様々な視点から、日本語教科書を分析することができる。 ・日本語教科書の実際の使い方を考えることができる。 	2~4		
52607	日本語教科書研究2		2~4		
52108	日本語教授法A1	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語(文法、語彙・表現)や日本文化に対する理解を深める。 ・「日本語を教える」とはということなのか、その目的を理解し、そのために必要な教授法やコースデザイン、日本語の文法についての知識を深める。 ・実際に初級レベルの日本語学習者をどのように指導するのか、指導の方法を学び、教案を作成する。 ・模擬授業の形式で、実際に日本語を教える模擬体験をし、コミュニケーションを重視した日本語を指導するにはどのような知識や心構えが必要とされるのかを自ら学ぶ。 	2~4		
52608	日本語教授法A2		2~4		

副専攻名 日本語教育

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、2019年に文化庁が示した「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(7単位以上)、「言語」(7単位以上)の5分野、および「教育実習」(2単位)にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした。

副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、および「教育実習」において計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
52112	日本語教授法B1	・日本語教授法Aで学んだ教授法の基礎的な知識と実践を確認する。 ・基礎的な教授法をもとに、技能別(聞く、話す、読む、書く)の教授法や応用的な教授法を理解する。	3~4		
52612	日本語教授法B2	・多様な日本語教育のニーズに対応するための、目的別の教授法を理解する。 ・交流型の日本語活動の理念と実施方法を理解する。 ・さまざまなタイプの模擬授業を計画し、実践する。	3~4		
52117	日本語教育史1	外国人への日本語教育はここ30年ほどの期間に年々盛んになったと理解している学生が多いが、実は19世紀末から第二次世界大戦終結の1945年までの50年近い期間に、日本のアジア占領政策の中で行われた台湾、朝鮮半島、南洋諸島、中国満州での日本語教育が早い時期のものである。授業では、そのような戦前の海外での日本語教育の歴史を中心に概観し、日本語教育能力検定試験にも対応できるような知識を身に付けさせる。	2~4		
52617	日本語教育史2		2~4		
52659	日本語教育とICT	・日本語教育における学習ツールとしてのICTについて理解した上で、使いこなす。 ・ICTのさまざまな機能を利用しながら、教材を作成する。	3~4		
51138	日本語教育評価法	・日本語教育の場面で用いられる評価法の目的・種類・形式・判断基準がどのようなものか説明できる。 ・利用目的に応じた評価法を選択できる。 ・おのおのの評価法を適切に用いることができる。	3~4		
16270	日本語学概論A	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識のうち、文法、文字表記を中心に学び、日本語への理解と関心を深めることができる。	2~4		
16468	日本語学概論B	主として現代日本語を中心に、外国人に対する日本語教育や日本人のための国語教育にとって必要な日本語の基礎知識のうち、音声、語彙を中心に学び、日本語への理解と関心を深めることができる。	2~4		
52641	日本語史1	音韻・文法・敬語等の分野を中心に日本語の歴史的変化についての基本的な知識を身につけることで、現代日本語の特質や仮名遣いの問題についてより深く理解することができる。	2~4		
52642	日本語史2		2~4		

副専攻名 日本語教育

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

副専攻「日本語教育」のカリキュラムは、2019年に文化庁が示した「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版」に準拠して、「社会・文化・地域」(4単位以上)、「言語と社会」(4単位以上)、「言語と心理」(2単位以上)、「言語と教育」(7単位以上)、「言語」(7単位以上)の5分野、および「教育実習」(2単位)にふさわしい授業科目を準備し、日本語教育副専攻資格に必要とされる26単位以上を履修できるようにした。

副専攻の学習成果

副専攻「日本語教育」のカリキュラムより、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5分野、および「教育実習」において計26単位以上を履修することにより、外国人に対する日本語教員としての基礎的資格である日本語教育専攻資格(人間社会学域長名による証明書の発行)を取得するとともに、日本語教員としての基礎知識と教授法の基礎を身につけることができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	開講期※1	
				前期	後期
52657	日本語文法1	・日本語文法の基本を理解する。 ・世界の言語から見た日本語の言語特性を理解する。 ・ある語形がどのような文法的ふるまいをし、どのような意味用法を持つのかを、具体例を示しながら日本語学習者に対して説明できるようになる。	2~4		
52658	日本語文法2		2~4		
52643	日本語音声学1	言語教育における音声の重要性を理解し、日本語の音声について、日本語教育的観点から深く理解することができる。また、日本語を含む諸外国語の代表的音声の発音と聞き取りができるようになる。	2~4		
52644	日本語音声学2		2~4		
52645	言語学概論A	・人間の「言語」の普遍性・個別性・多様性を理解する。 ・言語学を学ぶために必要な基礎知識、考え方を得る。	2~4		
52646	言語学概論B		2~4		
52647	言語学概論C		2~4		
52648	言語学概論D		2~4		
52649	対照言語学1	日本語の言語学的特徴を、他言語との対照の中で再確認し、日本語の特徴を客観的に把握することで日本語教育に生かすことができる。	3~4		
52650	対照言語学2		3~4		
52651	認知言語学1	・認知言語学の基本的な考え方を理解できるようにする。 ・認知言語学の基本的な概念を用いて、自ら言語分析を行う力を養う。	3~4		
52652	認知言語学2		3~4		
51141	日本語教育実習1(大学留学生)	実際の日本語教育・日本語支援の現場において日本語を教える準備・実践とその振り返りを重ねることで、多様な日本語学習者に対して活動できる総合的スキルを身につける。	3~4		
51142	日本語教育実習2(生活者)		3~4		
51143	日本語教育実習3(児童・生徒)		3~4		
51144	日本語教育実習4(日本語学校留学生)		3~4		
51134	海外日本語教育実習		4		

※1 開講期は、Webシラバスでご確認ください。

※2 学域GS科目として履修する場合の科目番号

※3 教員免許取得希望者が教職に関する科目として履修する場合の科目番号